

岩倉市ホームページアクセス数資料

対象期間：2017年04月01日～2018年03月31日

順位	タイトル	アクセス数
1	職員採用試験について	10,733(1.4%)
2	災害・気象情報について	6,878(0.9%)
3	岩倉市議会	6,178(0.8%)
4	アクセス・臨時駐車場案内（桜まつり）	4,999(0.6%)
5	住民票の写しと戸籍謄抄本	4,992(0.6%)

総アクセス数合計	784,953(100%)
月平均アクセス数	65,412

岩倉市ホームページアンケート集計結果

- 調査の概要 リニューアル後(平成28年12月1日以降)の岩倉市ホームページについて
- 調査の趣旨 市民の皆さんの意見・感想をホームページ運営の参考とするため
- 調査対象 岩倉市民およびホームページ閲覧者
- 調査期間 平成29年11月27日(金)～平成29年12月31日(日)
- 調査方法 岩倉市ホームページ内にある投稿フォーム
- 回答数 30

1.あなたの性別を教えてください

性別	男性	女性	計
人数	20	10	30

2.あなたのお住まいを教えてください

住まい	市内	市外	計
人数	26	4	30

3.あなたの年代を教えてください

年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
人数	1	2	5	7	6	5	4	0	30

4.普段、岩倉市の行政情報をどのように入手していますか？

手段	広報紙	ホームページ	メール	新聞等	回覧板	人から	計
人数	21	6	1	0	1	1	30

5.岩倉市ホームページをどの頻度で利用していますか？

頻度	毎日	週に数回	月に数回	年に数回	初めて	利用せず	計
人数	2	5	13	7	3	0	30

6.岩倉市ホームページはどの媒体でご覧になっていますか？

媒体	パソコン	スマートフォン	タブレット	携帯電話	計
人数	18	11	1	0	30

7.岩倉市ホームページを利用する目的はなんですか？(複数回答可)

目的	仕事	勉強	趣味・娯楽	生活	子育て	行事・イベント	手続き・制度	緊急情報	計
人数	7	3	4	11	2	17	12	7	63

8.岩倉市ホームページの情報の見つけやすさはいかがですか？

見つけやすさ	とても見つけやすい	見つけやすい	普通	見つけにくい	とても見つけにくい	計
人数	3	12	12	2	1	30

9.岩倉市ホームページのデザインやレイアウトはいかがですか？

デザイン	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	計
人数	7	11	11	0	1	30

10.各ページの情報量はいかがですか？

情報量	ちょうどよい	多すぎる	やや多い	やや少ない	少なすぎる	気にならない	計
人数	15	0	3	5	0	7	30

11.今後、岩倉市ホームページで充実してほしい内容はどれですか？（複数回答可。3個以内）

内容	市の施策・計画	PR情報	子育て・教育	防災・緊急情報	高齢者・介護・福祉	イベント・講座・教室	
人数	8	4	4	11	6	13	
内容	証明・届出	ごみ・環境	道路・水道	産業振興	歴史・文化・スポーツ	観光	健康・医療
人数	3	7	0	0	5	0	4
内容	公共施設	市議会	その他	計			
人数	6	5	1	77			

12.11で「その他」と回答した人にお聞きします。具体的にどの内容を充実させてほしいですか？

・各区内の情報

13.改善してほしいページがありましたらご記入ください。

・情報量が減ったページがある

14.ホームページへのご意見・ご感想がありましたら、ご記入ください。

・今後も市内の情報などを見るために利用させていただきます。

・パステルカラー使いで、優しい画面で見やすいです。探しているところ見つけやすい画面構成でいいと思いました。

・このアンケートの、情報量 デザイン等は新しいホームページの話？旧の話？

・内容を更に簡素化し、「見える」「聞ける」市民みんなが入り込める様にすると更に良い。

・トップページにある「こんなトコ岩倉市」は市外の人に市の魅力を伝える良い内容だと思います。岩倉市に住もうかと検討している人が、アクセスして見ることを前提に考えると、有効だと思います。

・イベントアルバムが整理されていて見やすく良いと思います。岩倉市内で様々なイベントが開催されていることがよくわかり、これを見て市民の参加が増えるといいと思います。

・フォトアルバムの個別の写真に解説がつかなくなったので不便です。

・いわずらフォトアルバムの中、Googleフォトが2段階下になっていますが、1段階下だと使いやすいと思います。

・目的にたどり着きやすいページどんなのがいいかわからないけど...

No. 4 3 業務システムの最適化

独自利用によるマイナンバーを利用した情報連携を行う事務

1	岩倉市母子・父子家庭医療費支給条例（昭和53年岩倉市条例第23号）による母子・父子家庭医療費の支給に関する事務であって規則で定めるもの
2	後期高齢者福祉医療費の支給に関する事務であって規則で定めるもの
3	日本国民に対する生活保護の実施の取扱いに準じて行う外国人の保護に関する事務であって規則で定めるもの
4	地域生活支援事業に関する事務であって規則で定めるもの
5	岩倉市遺児手当支給条例（昭和50年岩倉市条例第21号）による遺児手当の支給に関する事務であって規則で定めるもの
6	私立幼稚園就園奨励費補助金の交付に関する事務であって規則で定めるもの
7	経済的理由によって就学が困難な児童又は生徒（就学予定の者を含む。別表第3において同じ。）の保護者に対する就学援助に関する事務であって規則で定めるもの

岩倉市民俗資料企画展

「むかしの冬の暮らし展」

今回の企画展は、「むかしの冬の暮らし展」と銘打って、冬の生活に関係する衣・食・住の道具や、正月の道具を取り上げました。今では見かけなくなった道具や、形を変えてしまった道具を紹介することで、少し前の冬の暮らしを想像頂けたらと思います。

—あたためる道具—

寒い冬、家の中で過ごすには、体をあたためてくれる道具が欠かせません。昔から様々な方法で暖を取る道具が使われてきました。

○火鉢（ひばち）

中に灰を入れ炭火を起こして暖房や湯沸しに用いる器具。この火鉢は丸火鉢と呼ばれ、丸く削った木の内側に銅製の炉を入れたもの。



○櫓炬燵（やぐらこたつ）

複数の人間が同時にあたたまることのできる暖房具。櫓に組んだ高い台に木綿蒲団等をかけて使う。



○湯湯婆（ゆたんぼ）

中に熱湯を入れ寝床に入れて足等を温める暖房器具。江戸時代中期にはすでに円筒形やかまぼこ型の陶器製のものが使われていた。



○豆炭行火（まめたんあんか）

手足をあたためる移動式の暖房具。炭を燃料とするが、豆炭を燃料とした暖房器具で布袋に包み就寝時に布団に入れ用いられた。着火した豆炭を容器の中にあるくぼみに入れて使用する。



—冬のよそおい—

寒い時期には、着物の上にあたたかい防寒着を重ねました。外出する時には肩から羽織ったり、体をあたためたりするものを使いました。

○丹前（たんぜん）

着物や寝間着の上に着る防寒用の広袖の綿入れ。関西地方では「丹前」と呼ばれ、関東地方では「どてら」とも呼ばれる。



○ねんねこ半纏（ねんねこばんてん）

幼児を背負った上から羽織る綿が入った半纏。子守半纏ともいう。



○懐炉（かいろう）

懐中に入れて、腹部や腰をあたためる携帯用の暖房具。古くは焼き石を布でくるむ温石や、瓦を塩でくるんで焼いたものも使われた。元禄ごろに懐炉灰を金属製の小箱に入れる懐炉が出現した。



—食べる道具—

冬は体をあたためる料理が多く作られ、年末年始になると来たる新年を祝うために伝統的な料理が欠かせませんでした。また正月になると盛り付ける食器も華やかなものが用いられました。

○搗臼（つきうす）

輪切りにした木材を削って窪めた竪臼。蒸したもち米を入れて杵で搗いて餅を作るのに用いた。最近は材料の減少や手入れが簡単な事から石臼の方が主流となっている。



○横杵（よこきね）

筒型の木の上部に、長い柄を差し込んだ槌形の杵。搗臼で穀物や餅等を搗くのに用いた。この杵は搗く部分が丸く凸形になっており餅搗き用。一本の棒の中央を細く削って、握る部分にした杵を縦杵という。



○蝶足膳（ちょうあしぜん）

食卓や卓袱台以前に使われていた食器を載せる台。間が羽をひろげた蝶の姿になるようにかたどった脚をしている。正月や祝い事のときに食器を載せて用いた台で格調が高く、一般の日常では使われない。



○銚子（ちょうし）

酒を盃に移すときに用いた器で近世では儀礼用や、正月の御屠蘇を注ぐときに用いられる。元は木製や金属製の器に長い柄を付けたもので桃山時代にフタ付きの提子形のもものが登場した。



—正月の風景—

古来より日本人は、新年の始まりとなる正月に縁起の良い飾りをたくさん飾ったり、伝統的な遊びをしたりすることで一年がよい年になるよう願いをこめました。

○注連飾り（しめかざり）

正月に年神を祀るための依り代として各家庭の玄関に飾られていた。紙垂れは邪気を払い神域を示し、稲穂は五穀豊穡を祈るための飾りである。正月飾りの代表的なもので、玄関だけではなく車にも付けられることもある。



○羽子板（はごいた）

正月の代表的な遊戯である羽子つきをする道具。室町時代に蒔絵を施した装飾的な羽子板が出来、元禄時代には役者の似顔絵や美人画の押絵羽子板が人気を呼んだ。



○羽子（はご）

羽子板で撞ついて遊ぶためのもので玉に使われているムクロジは「無患子」とも書かれ、子どもが患わないとの意味が込められている。江戸時代の頃、京都や大阪では玉の部分と羽根を竹でつないだ形もあった。



参考文献

- ・『日本民具辞典』日本民具学会編集 1998年5月発行 りょうせい
- ・『絵引民具の事典』工藤員功編 2008年9月発行 河出書房新社